

# JR連合 政策News

第242号

2013年10月28日

## 高速道路料金問題をはじめとする 政策課題について国会議員懇談会で議論！

～同懇談会においてJR東海より

中央新幹線環境影響評価準備書の概要説明を受ける～

JR連合は、10月24日、衆議院議員会館において、第56回目となる国会議員懇談会を開催した。

懇談会には、高木義明会長（衆）、榛葉賀津也副会長、三日月大造事務局長、小川淳也事務局次長など7名の国会議員と秘書3名、JR連合、JR単組代表者が参加し、当面する政策課題や組織課題などについて報告、討議を行うとともに取り組み方針の意思統一を行った。



冒頭高木会長から「先の参議院議員選挙におけるJR連合の支援に感謝申し上げたい。先の衆議院選挙に引き続き厳しい審判を受けたが、働く者の視点に立った、働くことを尊重する共生社会づくり、そして日本の未来の為に尽力していきたい。併せて、JR連合の政策課題等の解決に向けて、議員懇談会として全力で取り組んでいきたい」と力強く挨拶をおこなった。続いて松岡会長から、「JR北海道で多発する事故、トラブルについて、関係各位にお詫び申し上げます。安全最優先の風通しのよい企業風土を作り上げるためにJR連合として精一杯取り組みを行って行く所存である。さて、高速道路に関する議論が俄に活発化している。最近の新聞各紙によれば、次年度以降も引き続き税金を投入した高速道路割引施策がやや形を変えながらも継続される見込みとの報道がなされている。消費税増税に伴う景気対策という一面も滲ませているが、JRをはじめ公共交通機関は消費税引き上げを運賃に転嫁する一方で、高速道路には公費が継続投入されて割引体系が維持されることになれば極めて不公平な環境を助長することとなる。これは本四架橋を抱えたJR四国に限った問題ではなく、JRのみならず全ての公共交通に関わる問題である。まずは関係議員との連携を取りながら今後の対応を講じて参りたい」と述べた。

その後の議事では2014年度予算・税制改正に関わる重点項目の洗い出し、要望事項の確認を行った後、上述の高速道路料金問題に関わる審議、そして、JR北海道も含めたいわゆる三島貨物問題に関わる政策面での対応等について意見交換を行った。

第二部では、JR東海より「リニア新幹線の概要について」と題し、中央新幹線環境影響評価準備書の概要について説明を受け、意見交換を行った。